

## FWDグループが提供する新しいライフスタイルアプリ「Omne by FWD」のアンバサダーにバドミントン・奈良岡功大選手が就任

FWD生命保険株式会社(本社：東京都中央区、代表取締役社長兼CEO：山岸英樹)は、FWDグループホールディングスリミテッド(以下FWDグループ)が提供する新しいライフスタイルアプリ「Omne(オムニ) by FWD」のアンバサダーに、2024年パリオリンピック出場が期待されている日本バドミントン界の次世代若手有力選手である、奈良岡功大選手が就任することをお知らせします。



写真左から：奈良岡功大選手、FWD生命保険株式会社代表取締役社長兼CEO山岸英樹

バドミンントンの競技人口が多いアジアでも活躍し、バドミントン世界ランキング5位の奈良岡功大選手が、アジア全域で生命保険事業を展開しているFWDグループが提供する新しいライフスタイルアプリ「Omne by FWD」のアンバサダーに就任しました。Omneは奈良岡功大選手のグローバルな活躍を長期的にサポートします。

Omneのアンバサダー就任について、奈良岡功大選手からのコメントは以下の通りです。

「この度、FWDグループのライフスタイルアプリ「Omne by FWD」のアンバサダーに就任いたしましたバドミントンプレイヤーの奈良岡功大です。アスリートにとって日々の体調管理はとても大切なことです。海外遠征が多いので時差などでの睡眠の管理、その国々によって変わる食事の管理などをしながら、勝負の世界で戦っていかなければなりません。僕個人として、またアスリートとしてのライフスタイルをこのアプリを楽しみながら活用していきたいと思います」

Omneは音楽やゲーム、科学的なヘルスチェック・睡眠サポートなどのメニューから毎日の習慣づくりをサポートするアプリです。



またゲームやヘルスチェックなどで貯めたOmneのポイントを使って、アジアの国々への植樹の活動に参加できます。里親になった木の成長にあわせて、その木が削減したCO2削減量の確認もでき、習慣づくりをしながらCO2削減に貢献できるユニークな仕組みも提供します。



Omne について詳しくはこちら

### FWD グループについて

FWD グループは、アジア全域で生命保険事業を展開し、世界で最も成長が著しい保険マーケットを含む、アジアの10の地域で、約1,000万人のお客さまに支持されています。

FWD グループは2023年に設立10周年をむかえました。デジタルテクノロジーを活用した革新的な手法と、わかりやすい商品を通して、シンプル、スピーディー、スムーズなお手続きを、お客さまにご提供できるよう努めています。

このお客さま目線のアプローチを通じて、FWD グループは人々が抱く”保険”に対する感じ方・考え方を刷新します。

FWD グループについて詳しくは、[www.fwd.com](http://www.fwd.com) をご覧ください。

### FWD 生命保険株式会社について

FWD グループは、アジアの10の地域、日本、香港・マカオ、タイ、インドネシア、フィリピン、シンガポール、ベトナム、マレーシア※、カンボジアに展開しています。

FWD 生命は「人々が抱く“保険”に対する感じ方・考え方を刷新すること」をビジョンに掲げ、1996年8月の創業以来、常にお客さまの視点で考え、シンプルでわかりやすく、独自性豊かな商品・サービスを提供し、FWD グループの一員としてアジアを代表する保険会社になることを目指しています。

2023年1月4日に発表されたオリコン顧客満足度®調査において、収入保障型生命保険商品ランキングで『FWD 収入保障』が3年連続1位に選ばれました。

FWD 生命に関してより詳しく知りたい方は、[www.fwdlife.co.jp](http://www.fwdlife.co.jp) をご覧ください。

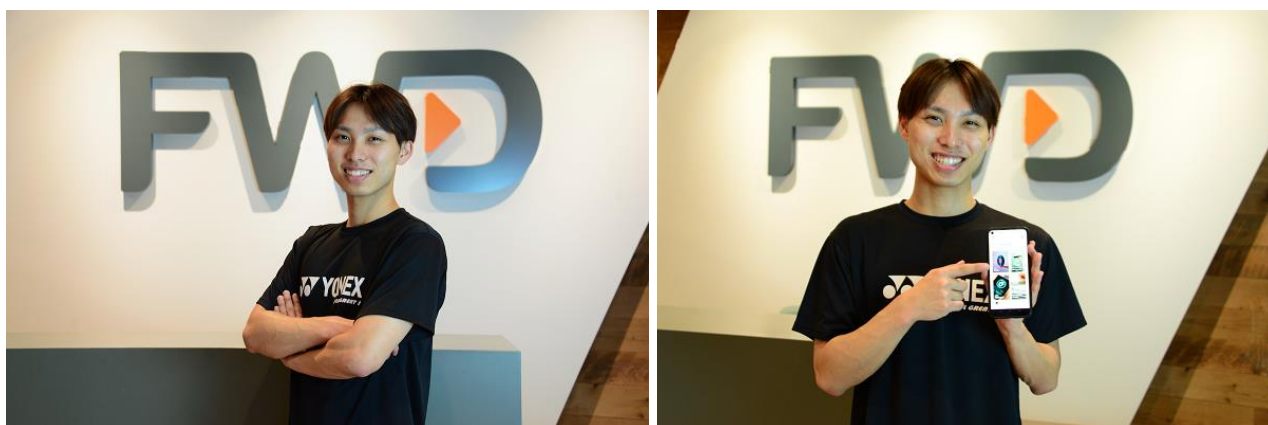
※マレーシアではタカフル保険を扱っています。

## 奈良岡功大 KODAI NARAOKA

出身地：青森県青森市  
生年月日：2001年6月30日生まれ（現在21歳）  
出身クラブ：浪岡ジュニアバドミントンクラブ  
世界ランキング：5位（2023年3月31日現在）  
日本ランキング：2位（2023年3月31日現在）  
家族構成：父 母 妹

### <経歴>

青森市立浪岡南小学校  
青森市立浪岡中学校  
青森県立浪岡高等学校卒業  
2020年4月 日本大学  
スポーツ科学部競技スポーツ学科入学



指導者でもある父親の影響で、5歳でバドミントンを始める。  
小学4年生から出場可能な全国小学生バドミントン選手権大会に4年生から出場し、4年、5年、6年とシングルス3連覇を果たす。浪岡中学校1年で、史上最年少でバドミントン全日本総合選手権予選に出場。1回戦、前年度インターハイシングルス準優勝、ダブルス優勝の保木卓朗選手（当時19歳）に勝利。中学1年生が全日本で1勝は史上初であり、予選2回戦敗退ではあったが、一気に注目を浴びる。また全日本中学校大会でもシングルス3連覇を成し遂げる。浪岡高等学校に進学し、初めてのインターハイはシングルス準優勝。2017年の全日本総合選手権本戦に出場し、史上最年少16歳4か月で1勝を挙げ1回戦を突破。  
2018年、ブエノスアイレスで行われた第3回ユースオリンピックにて男子シングルスでは日本初となる銅メダルを獲得。  
2019年、海外のシニアツアー大会を意欲的に転戦し、グレード3のラオス・ジャマイカ・モンゴル・ドバイ・アメリカのインターナショナルチャレンジで優勝。  
さらには、グレード2のロシア Super100 でベスト4、マカオ Super300 でベスト8進出を果たし、2019年度はチャレンジ大会5勝を挙げ、世界ランキングを116位から一気に43位まで上昇させた。1年を通して海外国際大会に出場したのは2019年が初めてのことであったが、期待以上の大きな成果を上げることができた。  
2020年3月には高校を卒業し、4月より日本大学スポーツ科学部競技スポーツ学科に席を置きながら、世界転戦を中心に活動。  
2022年8月から日本代表ナショナルA代表入りを果たし、一気にランキングを上げ、12月のツアーファイナルでは初出場ながらベスト4進出。BWF Awards 2022 Most Promising Player 賞を受賞。2023年1月にはマレーシアオープン Super1000大会で初の準優勝。  
現在世界ランキング5位で2024年パリオリンピックでの活躍が期待される選手である。

### <主な過去戦績>

- 2023年 マレーシアオープン Super1000 準優勝
- 2022年 BWF Awards 2022 Most Promising Player 賞受賞
- 2022年 台湾オープン Super300 準優勝
- 2022年 シンガポールオープン Super500 準優勝
- 2022年 韓国マスターズ Super300 準優勝
- 2022年 トマス杯 銅メダル
- 2022年 日本ランキングサーキット 優勝
- 2021年 トマス杯 銅メダル
- 2021年 日本ランキングサーキット 準優勝
- 2021年 全日本総合バドミントン選手権 準優勝
- 2019年 YONEX USA International Challenge 優勝
- 2019年 Dubai International Challenge 優勝
- 2018年 第3回ユースオリンピック バドミントンシングルス 銅メダル
- 2016/2017年 全日本ジュニアバドミントン選手権 優勝
- 2014/2015/2016年 全日本中学生バドミントン選手権大会 優勝
- 2011/2012/2013年 全国小学生バドミントン選手権大会 3連覇

以上